農業の担い手通信

北海道帯広農業高等学校農業の担い手育成対策協議会

No. 1　令和３年６月30日発行
帯広市稲田町西１線９番地
TEL 0155-48-3051
FAX 0155-48-3052
URL　http://obino.hokkaido-c.ed.jp

令和３年度　総会書面決議

担い手対策協議会にご理解ご協力いただきありがとうございます。

本来であれば直接お会いしてお願いに上がるところですが、新型コロナウイルス感染症対策として総会を書面決議とさせていただきました。すべての農協様に承認いただきました。計画させていただきました事業についてはコロナウイルス感染状況を見ながら実施していこうと考えております。担い手の育成のためにご支援いただいた資金を活用し充実した活動ができるように取り組んでいこうと考えております。

今年度の補助金については別添資料の通りご請求させていただきます。大変お忙しいなかではございますがご協力よろしくお願いいたします。

生徒の活動について

令和３年度はコロナウイルス感染症対策に取り組みながら学校に生徒が登校し日々の実習に取り組んでいます。昨年度は休校期間が長く続き、実習や寮生活が制限されましたが、今年度は各科の専門知識を高める為に充実した教育活動が展開されています。







昨年度JA共済連様より寄贈していただいたトラクターにニコン・トリンブル様より寄贈されたGNSSガイダンスシステムTrimble　GFX-750を装着し、自動操舵システムを生徒の実習で活用し最先端の技術を学ぶことができています。

GAPについての学習も積極的に行われております。２年生GAPチームから１年生に『GAPとは何か』を伝える勉強会を実施するなど行われています。

農業クラブ　校内意見発表大会

農業クラブ活動も行われ、自分自身の思いを発表する意見発表大会では各クラスの予選、学年予選で選ばれた代表者が校内大会に望みました。本来であれば全校生徒の前で発表をするところですが、感染症対策として代表者のみが審査員の前で発表する形で行われました。東北海道大会も事前に録画した発表で評価されますが、実施される事になったので頑張って練習に取り組んでいます。





校内大会　最優秀賞　森田　風薫樹（更別）

北海道帯広農業高等学校長より

この度の、人事異動により本校に着任しました、大関俊郎です。協議会の皆さまには多くの面でお世話になりますが、よろしくお願い申し上げます。

今年度に入っても、新型コロナウィルス感染防止を図りながらの教育活動が続いており、本校においても、学校祭の中止をはじめ、各種行事等を縮小せざるを得ない中ではありますが、教育活動を前に進めています。緊急事態宣言下であることから、本協議会の総会についても、書面決議となりましたことについて、ご理解を賜りたいと思います。

今年度は、本協議会のご支援をいただきながらASIAGAP認証品目を増やす取組や、HACCPに基づいた食品製造の推進、さらには、スマート農業の実践など、農業の新しい分野を取り入れた教育を行う予定でおります。伝統ある帯農の「為すことで学ぶ」という実践教育を推進して、意欲溢れる担い手作りを進めてまいりたいと考えております。

今後とも、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

農業の担い手通信

北海道帯広農業高等学校農業の担い手育成対策協議会

No. 2　令和３年 12 月３日発行
帯広市稲田町西１線９番地
TEL 0155-48-3051
FAX 0155-48-3052
URL　http://obino.hokkaido-c.ed.jp

コロナ禍での生徒の活動



農業の担い手育成対策協議会にご理解ご協力いただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症対策を取り、生徒の実習等が実施されております。10 月からは状況も落ち着きを見せ販売会等も実施することができました。

学校としても野球部が第 103 回全国高等学校野球選手権大会に出場し、甲子園で農業高校の活躍を多くの方に見て頂くことが出来たと思います。出場に際しましては多くの方々から応援メッセージ、協賛金を頂き本当にありがとうございました。

今年度の農業の担い手対策協議会補助金につきましても、全ての農協様にご協力頂き、担い手育成のため活用させて頂いて下ります。

ASIAGAP 審査

今年度の「ASIAGAP ver. ２. ３」の継続審査が 11 月 10 日（水）～11 月 11 日（木）の２日間開催されました。

穀物「コムギ」「ダイズ」「アズキ」、青果物「ジャガイモ」「ナガイモ」「エダマメ」、今年度から新規で「カボチャ」も申請し合計７品目の審査をしていただきました。農業科学科生徒 GAP チーム 37 名（３年生 15 名、２年生 15 名、１年生７名）が審査に向け書類の準備、農場の確認を協力して進めてきました。審査当日も書類説明から農場での説明までしっかりとおこない、審査員の方から非常に高い評価をしていただく事が出来ました。審査結果については１月に連絡が来ることになっております。改善点、是正点も数点指摘していただいたので、安心・安全な活動が出来るように継続して改善し活動を進めていきます。

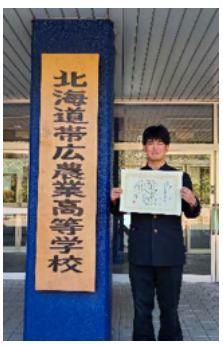






農業クラブ　意見発表大会

今年度もオンラインで開催された東北海道大会に校内大会で選ばれた４名が出場しました。その中でⅠ類（生産・流通・経営）に出場した酪農科学科３年　多田　雅樹君（農業クラブ会長）が最優秀賞に輝き、全道大会に出場しました。全道大会もオンラインで行われましたが優秀賞１席を獲得することが出来ました。その後出場した産業教育意見発表大会においても優秀賞を獲得することができ、「帯広農業高校で学んだ事を、将来の酪農経営に向けて活かして生きたい」と、自分の意見を堂々と発表していました。



多田雅樹君（湧別町出身）

畜産学習会

10 月 30 日（土）乳牛審査技術研修会に本校のホルスタインクラブ３年生と１年生が参加しました。

十勝乳牛改良同志会連合会主催の乳牛の審査技術向上を目的とした研修会で、講師審査員として清水町の酪農家である松原秀雄様をお招きして開催されました。研修会では、未経産クラスの乳牛審査技術の解説や審査手順から４才クラスの審査と講評までを、十勝農協連の家畜共進会場内で実際に乳牛を見ながら、詳しくご指導いただきました。審査技術については、乳牛の生年月日や分娩月日を確認しながら、それぞれの乳牛の審査講評を生徒自らがおこなった後に、審査員の松原様より解説いただきました。今後の共進会再開に向け、十勝の乳牛改良への熱意を感じながら、生徒にとっても非常に励みになる研修会となりました。




イアコーンサイレージ収穫

酪農科学科では、自給飼料生産についての学習を展開しています。今年度は 10 月 22 日（金）に飼料用トウモロコシをイアコーンサイレージで収穫しました。イアコーンサイレージとは、トウモロコシの雌穂を収穫し密封貯蔵して発酵させたものです。茎葉も利用するホールクロップサイレージと比べると収量は少なくなるものの栄養価は高く、圧ぺんトウモロコシの代替飼料として活用できます。当日は、農研機構北海道農業研究センター様と（有）デーリィーサポート様と連携し収穫しました。生徒達はスナッパヘッドを装着した自走式ハーベスタでの収穫作業と細断型ベールラッパでの調製作業を見学しました。今後は、生産費を計算し、濃厚飼料購入に比べての経営的なメリットを学習します。また、飼料分析を行い、家畜へ給与する予定です。




第 49 回毎日農業記録賞

農や食に関わる人たちを応援する毎日農業記録賞に北海道から２名が全国の優良賞に選ばれました。その１名に農業科学科２年　森本　凱君（士幌町出身）が選ばれました。帯広農業高校入学後に体験した実習や大学との連携学習から「農業に携わる達成感」を感じ、畑で黙々と働く父親の姿、農業に掛ける強い思いを文書にまとめました。将来地元の士幌町に戻り新しい栽培方法や機械化など先駆的に取り入れていきたいと夢を膨らませています。

生徒の活動が映像で紹介されています

学校のホームページにリンクを貼り多くの方に見ていただけるようにしています。

STV「どさんこワイド 179」30 周年と北海道の農業高校がコラボレーションし、STV「どさんこワイド 179」の人気コーナー「奥様ここでもう一品」において料理研究家・星澤幸子先生が作る簡単レシピを紹介しております。本校も 11 月２日に野菜、肉などを活用し「秋の十勝のケークサレ」を作っていただきました。

また、配信限定の【手づくり学校自慢 VTR】もぜひご覧ください。

農業の担い手通信

北海道帯広農業高等学校農業の担い手育成対策協議会

No. 3　令和４年３月 22 日発行
帯広市稲田町西１線９番地
TEL 0155-48-3051
FAX 0155-48-3052
URL　http://obino.hokkaido-c.ed.jp

ご支援ありがとうございます

農業の担い手育成対策協議会にご理解ご協力いただきありがとうございます。

今年度も１年間、新型コロナウイルス感染症の対策をとりながら、昨年度に引き続き制限された中で生徒の活動は行われてきました。生徒の実習等は今までと同じように出来ないことも多くありますが、感染症対策を徹底し多くの活動が実施されてきました。

今年度の農業の担い手対策協議会補助金につきましても、生徒の担い手育成のため活用させて頂き、３月 17 日に、JA さつない 高橋組合長、JA さらべつ 若園組合長に監査をしていただきました。来年度につきましてもご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

ASIAGAP 認証・JGAP 指導員３名合格



今年度の「ASIAGAP ver. ２. ３」の審査が 11 月 10 日（水）～11 月 11 日（木）の２日間開催され、12 月 20 日に穀物「コムギ」「ダイズ」「アズキ」、青果物「ジャガイモ」「ナガイモ」「エダマメ」、「カボチャ」の７品目が認証されました。

また、農業科学科の生徒で組織している GAP チームで活躍した３年生３名が、「JGAP 指導員」に合格することが出来ました。GAP 認証に向け日々活動する中で試験に向けての知識が備わり、「特別な勉強をすることなく試験に合格することが出来た」と生徒から嬉しい話がありました。３名は高校卒業後直ぐに就農する生徒、農業系の学校に進学後就農する生徒と進路は分かれますが、今回の得た知識を活かし地域に戻り活躍することを願っています。

農業クラブ　実績発表大会



１年間活動してきたプロジェクト活動をまとめ発表する実績発表大会が実施されました。各学科で予選が行われ、校内大会で選ばれた７班が１月 19 日～20 日別海高校を会場に実施された東北海道大会に出場しました。結果はⅠ類（生産・流通・経営）に出場した農業科学科　生産システム班が最優秀賞、酪農科学科 動物バイオテクノロジー班が優秀賞、Ⅱ類（開発・保全・創造）食品科学科 地域資源活用班が優秀賞を受賞、農業クラブ活動も同じく優秀賞を受賞し全道大会出場の切符を手にすることが出来ました。

２月３日～４日に富良野緑峰高校で開催予定だった全道大会は、残念ながら新型コロナウイルス感染状況の拡大により、事前に録画した動画での審査となりました。当日は大会の模様が動画で配信されましたが、会場で直接発表することが出来ず残念な思いをしている生徒が多くおりました。全道大会においても農業科学科　生産システム班『ツイン・ロー栽培がダイズの生育・収量に及ぼす影響について～無限伸育成品種と無限伸育成品種の違い～』、食品科学科 地域資源活用班『十勝の農業資源で健康寿命にアプローチ～DFAⅢを配合した機能性食品の開発～』が優秀賞を受賞することが出来ました。

日本農業技術検定



農業の基礎から栽培、畜産、食品などの専門知識を問われる検定で、本校では 2008 年より受験しています。今年度、農業科学科２年生 37 人が３級に全員合格することが出来ました。日々の専門教科の学習、検定に向けての対策を行い結果に繋げることができました。２級に挑戦した生徒の多くも合格し、２・３級同時に「優秀団体賞」も受賞することができました。